

解答例

一

問1 a 内省 b 魅力 c 郷土 d 看板 e 採算

問2 地域の利用者がいるのだから残すべきだ、という論理で鉄道の存続を訴えたとしても、その「地域の足」の「数」自体が少なければ採算が上がらず、そのことが「廃止」の根拠とされてしまうということ。

問3 鉄道を「残す」のではなく「生かす」という発想を持つことで、単なる移動手段をこえて、地域の利用者の希望を鉄道で実現させ、地域企業とともに稼ぐ仕組みを作っていくことにより新たな価値を生み出し、結果として「残す」ことにつながることを考えている。

問4 日本では地方路線にも採算性を求め、民間に任せた鉄道事業を赤字・黒字といった基準で判断する傾向が強い。それに対して海外では、気候変動への危機感や原油高などを踏まえて鉄道を道路と同じ社会の資産と位置付け、国が公的財源で支える姿勢と仕組みを整えており、社会全体で鉄道の現代的価値をとらえ直すそうとしている。こうした海外の取り組みを参考に、日本でも社会全体で議論を進めていくべきであると考えている。

問5 現代の日本において鉄道の廃止は、運行企業の問題とされることが一般的である。筆者はそうした考え方を承知したうえで、鉄道が廃止される原因は地域や社会で生きる私たち一人ひとりにあると「あえて」突き付ける。この問題を自分たちの個々の問題としてとらえ直すことで、個人個人が地域の鉄道を生かすという発想・思考を持ち、それによって鉄道の潜在的な価値が多様に発揮される可能性が生じると考えている。

問 6 たいそう早く行き着いた。

問 7 過去の助動詞「き」の連体形

問 8 「泣かれ」と「流れ」が掛けられている

問 9 返事さえしないで

問 10 (a) 謙讓語

(b) 男から女(もとの妻)への敬意

問 11 女(もとの妻)が身を寄せる場所が、京の郊外の小さい荒れ果てた家であることを知らずに、女を家から追い出してしまったことを悔やんだから。

問 12 今の住まいを訪ねて来ることさえないだろうと思っていた男が、自分をもとの家に連れて戻ろうしているので、どのような心の変化があったのかといぶかしく(または、不審に)思う気持ち。

問 13

a 「こた（へて）」

b 「よ（シト）」

c 「かな」

問 14

其誰可而為之。

問 15

（書き下し文）

ごはなんぢ「し」のこにあらずやと

（現代語訳）

（祈）午はあなたの子どもではないか、と。

問 16

自分から遠い人物では仇敵でも避けることなく推挙し、近い人物では自分の子どもでも避けることなく推挙した。

問 17

「公」